静岡 ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER

5月1日月曜日
昭和53年（1978年）

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　堀田哲爾
清水市七ッ新屋291
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市真砂町1－12
編集専用電話66－5282（代）

昭和49年5月1日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行　1部30円

PEPSI

第五回高校サッカー親善試合
清水東が無敗の優勝！
読売優勝旗争奪戦閉幕！
準優勝は国士館大ジュニア

第五回高校サッカー親善試合は三月二十七日より三十一日までの五日間、清水市営グラウンドを中心に、県外二十チーム、県内十チーム、合わせて三十チームによって行われた。

試合形式は前回と同様、五ブロック、六チームの一次リーグ戦を行い、さらにその順位に従って順位リーグ戦を行い、延べ試合数は百三十五試合に及んだ。

優勝は五回目で初めて地元の清水東高が単独優勝を果たし、地元の面目を保った。

一位リーグに進出したチームは、二位の国士館大学は昨年以上に優秀な新人を集め、特に松本三（浦和南）白滝（清市商）内山（清水東）などの個人技の高さはさすがであった。

ただ優勝した昨年より、チームとしての強さがや、物足りなかった。

三位の静岡高校は主将大石を中心に、個人技を生かして攻守に知的なサッカーを見せ、ここまで進出したのは大殊勲といえよう。

四位の四日市中央工業は昨年の選手権の準優勝の自信が選手間に浸透し、大型選手が早い技術と的確な戦術眼をもっている。ユース帰りの樋口弟が加わると今年もひと暴れしそう。

五位の室蘭大谷は昨年の冬より巻土重来を期し、より厳しいトレーニングで鍛えられ部員三十四名全員をの大会に参加させ、学、帝京の両雄を完して勢いに乗り、今に賭ける高橋監督の気込みを感じさせた。

初参加の佐賀商業と松本工業が健闘！

本年初参加の佐賀商業、松本工業がそれぞれの持ち味を生かして各リーグ二位に進出したのは見事であった。

これに比較して帝京古河一、島原商業、韮崎、仙台育英、児玉、等県外の古豪がそれぞれのリーグ戦ではよい結果は残さなかったものの、チーム作りの一課程のなかで各監督の構想は着実に固まっていたにちがいない。

また日本ユース候補に異能選手の佐々木を送った枚方FCが近先生の個人技を生かサッカーで、安井等ぎつぎと個性的な選を送り出しているのさすがである。

全国の強豪と戦え唯一の機会をこの場経験する東京朝鮮高は、金監督の影響で麗なテクニシャンぞいで、雨中の悪コンディションのため、本の実力を十分に発揮きなかったのは残念あった。

二位リーグの優勝は地元の清水工業が

地元は清水東が全く予想もし得なかった優勝ということで、選手の意識の高かったことと、傑出した選手の不在がチームワークの強化につながったといえよう。

この他、静岡県の人戦で優勝し、対浦南戦でも引き分けならも優位に戦ったA2の静岡工業、二位リーグ優勝の伏兵清工業、エースの多くユース合宿に抜かれながら四位リーグで島原商、古河一、仙台育英清水商を破った静岡学園、三年生に実力の安定した選手を数多くかかえている清水商業、自動車工業、東海一高と多士済々である。

全体的な問題点としては、やはりグラウンドの確保ということであろう。特に雨の多いこの期間に、今年も二日間雨中戦を余儀なくされた。

二日間十二試合の雨中戦は、グラウンドは荒らされ放題というなかで、中味のある試合はできなかったし、地元の各学校の監督も心が痛んだ。

雨の場合、翌日の予備グラウンドを必ず確保したい。

毎年県外からの希望が多く、県外の二十校を決定するのに大変な苦労をさせられる。実力と過去の実績、地域のバランスを加味して本当により高いサッカーを目指そうとしているチームがこの大会に参加を許されるという権威を次第に高めつつあることはうれしい。

なお組み合わせも次第に慣れ合いという面でや、新鮮味が不足し少々過密なスケジュールもまた問題があるが今大会運営面でもトラブルがなかったし、大きなケガ、負傷はなかったし、多くのチームの監督がまた清水、静岡での再会を楽しみに帰って行ってくれたことは、何よりも大きな喜びであった。

この中のチームが一チームでも多く、全国大会で顔を合わせることができるように、各チームの健闘を心より期待したい。

第5回高校サッカー親善試合戦績

1位リーグ	2位リーグ	3位リーグ	4位リーグ	5位リーグ	6位リーグ
①清水東	①清水工	①韮　崎	①静岡学園	①清水南	①日大神奈川
②国士館大J	②佐賀商	②自動車工	②古河一	②枚方FC	②東海大工
③静　岡	③松本工	③静岡工	③清水商	③東海大一	③新潟工
④四日市中工	④帝　京	④郡山商	④仙台育英	④三本木	④松本県ヶ丘
⑤室蘭大谷	⑤朝鮮高	⑤児　玉	⑤島原商	⑤大　槌	（4チーム）

少年サッカー指導教程 ㉓

日本サッカー協会公認コーチ　堀田哲爾

ゴールキーパーの戦術

シュートを読む力

シュートされたボールはスピードがあるため、キーパーはボールのコースのできるだけ近くにいないと止めることはできない。そのためにゴールキーパーはシュートを読む力をつけなければいけない。

シュートされる前から読む

ボールがシュート圏に入ろうとする頃からシュートする危険のあるプレーヤーの様子、位置、走り方、それに対する味方の位置関係や妨害の状況などを見て、誰が、どこから、いつ、どの方向へ、どんなボールが来るかを予測することが大切である。

巧くポジションをとる

シュートに対する予測とポジショニングも直接ボールに対して位置をとること、最初は意図的に位置をとるが本能的な勘にまで高めるトレーニングが必要である。

ゴールを覚えこむ

キーパーはポジショニングをとるときは、ゴールのポストの位置と自分の位置を覚えこんでおくことが大切である。いちいちゴールをみながら確認しないで、自分が今、ゴールのどの位置にいるか、ゴールとの間の長さ等を常に位置関係で完全に理解しなければならない。

1対1には前進あるのみ

シュートをせばめるためにはボールに少しでもよることが大切である。相手は自由に接近してゴールのすみをねらうから、キーパーとしてはゴールからなるべく遠い所でボールに近づいてしまうことが大切である。

ボールは最後まで見つめよ

フェイントにかかってはいけない。フェイントはキーパーがかけよ。ボールをゴールとの間に自分の身体をおいてしまうことである。

倒れたらすぐ起きる

打たれるよりもパスさせた方が良い。そのためには倒れたらすぐ起きて、相手に圧力をかけることが大切である。

まわりを見る

常にゲーム全体を見ることが大切である。味方の動き、敵の動きを見つめることにより自分のポジションが決まる。

（次号はコーチの仕事）

PEPSI

清水FCブラジル遠征選手団
全日本少年大会県決勝戦の場で発表！
5月21日草薙球技場で

清水FCは八月七日より二十日まで十四日間、ブラジルサンパウロに遠征するが、現在選手選考を急いでいる。

予定者は金曜日、清水小のトレーニングセンターに出席して汗を出しているが、県外からの選手も入れ四十名各方面のバックアップのもとに四十名が決定する予定。

団長には清水市の大物議員を予定しており研修生として七名の中学校の先生も入る。

県外より同行希望も多く、八十名位の体になる予定。いまところ九州から北海までの少年の担当指者が深い関心を示しおり、その編成に時をかけている。

選手はデンチデレチの二十名、ペラーの二十名としている。半数以上の選手は決まっている。発表はジャパンカップの当日、草薙の会場にて行われる。

なお地元テレビ関係団ではブラジルでの試合者を何とか静岡のブラウ道導管にのせるよう努力している。またニュースの関係者の関心も強く同行記者希望もいて楽しい選手団が結成されそうである。

なおブラジル遠征記念メダル、ネクタイピンを作成、五月より販売することになっている。メダル七〇〇円、ネクタイピン一〇〇〇円ですばらしいデザインである。

第一回全日本中学生選抜サッカー大会
静岡選抜は準優勝！

第一回全日本中学生選抜サッカー大会は東京三菱養和人工芝サッカー場で行われ、全静岡は一回戦、二回戦は勝ち進んだが、準決勝で2対1、決勝は熊本に1対0で敗れた。

第一回大会だけに全静岡としては優勝したかったが、個々のプレーにまとまりがなく敗れた。来年に期待したい。

なお当日、日本技術委員会で選出した優秀選手は次のとおり。

◆優秀選手
小島　隆男（宮城⑨）
斉藤　香月（〃⑪）
清水　邦明（〃⑬）
湯田　秀行（栃木⑧）
加藤　竜介（〃②）
反町　康治（静岡⑬）
加藤　勇（〃⑭）
八木　清吾（兵庫⑥）
味坂　泰（熊本GK）
立石　勝志（〃⑧）
財満　博文（〃⑨）
山道　守彦（東京②）
大河内淳一（〃⑥）
三田村啓司（〃⑨）
須藤　正人（宮城①）
柴田　豊（静岡⑩）
渡辺　憲一（香川⑭）
国広　泰司（東京⑦）

【試合結果】
一回戦　不戦勝
二回戦　静岡2－1兵庫（0－0、1－0、延長1－0）
準決勝　静岡2－1宮城（1－1、1－0）
決勝戦　静岡0－1熊本（0－1、0－0）
得点　反町　山下
アシスト　柴田豊　加藤
得点　加藤　川口
アシスト　小沢

中伊豆大会
富士FC初優勝！

りっぱなホテルと芝生のグランドで三日間しかもすばらしいコーチのいる中でのサッカー大会は静岡県六チーム、神奈川県から六チームの計十二チームで行われた。

決勝トーナメントには清水小、清水FC五年、富士FC、有二が進出、少差で富士FCが優勝した。

雨の中での好試合に指導にあたったセルジオも感心、特別賞、得点王など数多い賞でほめたたえた。明年も三月の予定。

第二回全日本少年大会
県決勝は21日草薙で
その他各大会の組合わせも決まる

五十三年度少年サッカー県内組合わせが決まった。特に全日本大会には一二七チームが参加、各地区の予選を勝ちぬいたチームにより五月五日、七日、二十一日に決勝が行われる。

各大会の組合わせは次のとおり。県大会は次号。

沼津
草薙
草薙
草薙
草薙
焼津
静岡

静岡県サッカー協会5月6月行事

5月14日　県スポーツ祭
5月21日　ジャパンカップ　ボルシアMG対全日本
5月5日　7日　21日　全日本少年サッカー大会県予選決勝
6月10日　11日　全国高校総体県予選決勝トーナメント
6月10日　11日　全国自治体サッカー予選　決勝
6月11日　18日　25日　7月2日　9日

8月　JSLカップ戦
8月6日　藤枝市営G
在日朝鮮サッカー団対静岡県社会人選抜　13時
フジタ工業対よみうり　15時
8月13日　草薙G
フジタ工業対日立　15時

つま恋招待サッカー大会組合わせ

清水
富士宮
庵原
沼津
岡部
浜松
大井川
駿東
静岡
掛川
可美磐田浜北
富士
島田
榛原
藤枝
焼津

全日本少年サッカー大会

5/5　5/7　5/21

清水
庵原
志太
静岡
浜松
榛原
東部
藤枝

さわやか杯組合わせ

8/26　27

清水
富士宮
富士
庵原
岡部
天竜西
天竜東
静岡
藤枝
駿東
大井川
沼津
榛原
浜松
島田
焼津

東海四県大会

11/3

静岡
志太
藤枝
庵原
榛原
浜松
東部
清水

日中高校サッカー最終戦
日本ユース選抜勝利を飾る！

四月一日、中国ユース対全日本ユースの大会が行われた。このカードは三戦目であり最終戦とあって両軍最後の力をふりしぼり対戦した。

第一戦3対0、第二戦0対0と一敗一分でむかえた第三戦全日本は佐々木を中盤に、尾崎、田中、三浦と大型のバックではやいサッカーを求めた。

後半長いセンタリングを杉山が押し込むように決め、これが最終的には決勝点となり、1対0で初優勝を飾った。

ワールドユース大会を明年にひかえた全日本ユースにしてはや、力不足であり、ワールドユースクラスまでには時間がかかりそうであるが、当面アジアの強国代表を破ったことは高く評価してよいであろう。

しかし第一回チュニジアで行われたワールドユースでの試合ぶりはワールドクラスのミニ盤といっても良いほど速いプレーが多く、スピードとパワー、そしてテクニックの育成を一年半で仕上げてほしいものである。

第33回県スポーツ祭
八種別の決勝大会
五月十四日沼津市で開催！

第三十三回スポーツ祭は今年、沼津市で決勝大会が行われるが、スポーツ祭がオープン化して注目を集めてきたのがOBと親子の部

五十一年五十二年と連続優勝した清水は今年もOB、教員、親子高校、中学共に期待できそうである。

親子の部はなんといっても有一の三連勝なるかである。二年間は全く危げない試合で勝ってきた。過去三回の大会で藤枝一回、清水有一が二回と上位はほとんど清水で占められているが、今年は飯田辻、入江、江尻、庵原清水、来海と全て優勝をめざせるチーム。子どもでは頭一つ江尻がリードしているが予想は全くつかない。

中学は全清水FCの出場が決まっているだけに全く問題はない。

高校は藤枝東同好会清水工高同好会等ががんばりそう。

OBは静岡、清水、焼津あたりが強そうである。

一般は焼津が二連勝をねらっている。

教員は昨年、富士が優勝しているが、これも清水との争いになりそう。

町別対抗では可美が強そうである。

スポーツ祭親子サッカー大会組合わせ

4/16　4/23

有度二
焼津小川
飯田
高部
清水
庵原
焼津港
江尻
岡部
由比

A③　A①　A②　B②　B③　B①

A③　A②

5/14　沼津

4/23　4/16

C③　C①　C④　C②　D②　D①　D③

入江南
焼津一
三保見
不二
東海
焼津和田
興津
袖師
辻
芳川
有度一

A　清水小　①　9：30～
B　庵原小　②　11：10～
C　入江小　③　12：50～
D　興津小　④　14：30～

編集ノート

第二回全日本少年サッカー大会の県代表を決める予選は五日、七日に八地区の代表チームが出場権を目指して草薙で対戦する。決勝戦は二十一日のジャパンカップ戦と同時に草薙で行われる。サッカーファンには見逃せぬ当日の観戦をおすすめしたい◆活字につながる職業だから当然だろうが、人様よりは印刷物に目を通していられる時間がある。家に配達される新聞が五紙、駅の売店で買う週刊誌が三種、書店よりも一日早く来るのでこうなったらしいが習慣的になっているのか、週刊誌は書店で余り求めていない。月刊誌も週刊誌同様三冊求めて見ている、新聞や本は読むというものだとは百も承知だが、その他にも書評で取上げられたベストセラーの刊行物などがあれば、日常の新聞や週刊誌に読む頁よりも見る頁の量がはるかに多くても止むを得ないと、今日も月曜発行の連載小説を始め見る頁の多い週刊誌を買うことになる。

（二本木）

ボルシアMG対全日本選抜戦

ジャパンカップ開幕戦

五月二十一日 草薙で開催！

ジャパンカップは世界的プロサッカーチーム六チームを招待し、全日本二チームを加え八チームで五月二十一日から五月二十八日まで全国六地区十会場で開催されることになった。

広島、岡山、京都、大阪、神奈川、国立、大宮、神戸、三ッ沢、静岡と総計十五試合が予定されているが、開会日にあたる五月二十一日に静岡で、ドイツの雄、ボルシアMGが来ることに決定した。

来日するチームはイギリスからコペントリFC、ブラジルからパルメラス、ドイツから奥寺のいるIFCケルンとボルシア・メンヘン・グランドバッハMG、そして韓国ナショナルチーム、タイナショナルチームの六チームである。

ボルシアMGは三月二十五日現在、ドイツブルデスリーグ二位についており、IFCケルンと勝点2で最終戦をむかえている。16勝8分6敗で残り試合はザール、ブリュッケンシャルケ04、ハンブルガーSV、ドルトムントの四試合。

ケルンはフランクフルト、カイザースラウテルン、シュッツガルト、サントパリリの四試合である。

特にミュンヘンワールドカップで活躍したブライトナー、ボンホフ、主将のファイターのフォックスが健在である。若手のニールセン、デルハイエ、リーネン、ハネス、ボーラスが一人前に成長し、クレフ、ビンマー、ビットカンプ、ハインケスのベテランともうまくかみ合い、ヨーロッパ最優秀選手にも選ばれた。アラン、シモンセンといったワールドクラスの選手もすばらしいプレーを見せている。

復活祭中に行われたブンデスリーグ、デュッセルドルフ戦でも前半2対0とリードされていたが、ボンホフが2点入れ同点とし、ハインケスがあざやかに決め、後半簡単にひっくり返してしまった。

また三月二十二日にブェノスアイレスで行われたワールドクラブカップにリバプールと対戦、ハネスとボンホフのゴールで2対1とした。

またすでにUEFAカップの出場権も得ており、いま最ものっているチームである。

監督はウド・ラテック氏。過去ブンデスリガーで何回も優勝の経験のある人で、日本でのジャパンカップ終了後すぐアルゼンチンに行く計画である。

夢の見どころは何といってもフォックスブライトナー、ハインケス、ボンホフの四人のワールドクラスのノレーである特にドイツ優勝に導いたフォックスのプレーはみものデンマーク人のニールセンはミモンセンのプレーも興味を持って見られる。

過去、日本においてペレをはじめベッケンバウワー、オイセビオサントス、オベラーンヤミン等世界的プレーヤーが来て日本でプレーしたが、いつもチーム内にスタープレーヤーが一人か二人のチームであった。

しかし今回はボルシアMGそのものがスターであり、グランドに走るプレーヤーのその価値は四〇億円位になるそうである。

一人一人の足にかけている保険だけでも一二〇億円にもなるほどスタープレーヤーの集まりである。

西日本中学生選抜 韓国で一戦一勝！

西日本中学生選抜チームは編成三年目にして果たした見事な勝ちっぷりであった。

世界的にみれば日本のチームの対戦できるチームではない。しかし今回の企画でその大会が実現し、現実に草薙のグランドで開催されることは何よりである。

過去、韓国で勝って帰国したチームは全清水の少年だけであったが、今年の西日本が果たした功績は大きい。

コーチとして参加した小花公生氏より寄せられた文でその内容を明らかにしたい。

ンスはピンチの格言通りだったことを学んだ。

今大会から得た事柄は多大だった。

◇当チームの自評

GKは石倉BKからの変身、が不馴れで気の毒だ。顔面へのキックくらってもボールを離さず、ファイトをみせた。があまりの痛さに体育館に横たわり号泣する。

ハプニングだ！　金田と木岡は今大会の一番のチビを争った。足の短かいのはどっちだ？！

松沢は館内せましと動き回わり底抜けのスタミナをみせた。尻に栄養を貯えているからかな？　観客は我チームの練習にも大なる関心を寄せ、選手の一挙一動に「う～ん、スゴい！」「うまい！」の賛辞をおしまなかった。

本田は貧血気味だがよくやったし、兼高は顔がイイといわれ、優勝よりそのことのほうを喜ぶ。

◇チームメンバー

監督　杉山勝四郎
コーチ　吉田　泰明
　　畠山　泰道
GK石倉ゆき美　中1
B　本田美登里　中2
　　金田　美保　中1
　　兼高　美奈　中2
　　本間知恵子　中1
F　木岡　二葉　中1
　　半田　悦子　中1
　　松沢　清美　中2
　　半田　悦子
得点女王　半田　悦子
　　二年連続
優秀選手　木岡　二葉
アシスト女王
　　松沢　清美

◇戦果

〈予選リーグ〉
黒滝貴婦人B1－4
ヨコハマB　0－7
〈決勝トーナメント〉
IFCバイエルン（女子大生）2－4
〈準決勝〉
IFCヨハン（女子大生）1－2
〈決勝〉
養和FC　0－2

終了後、静岡か清水でも大会を開いたら――といわれる。堀田氏（県協会理事長）とか安間氏（ゴール事務局）の力をもってすれば大会を開けるでしょう……と審判員の人からいわれ（両氏驚くほど有名）考えてもみなかった地元での女子ミニサッカー大会がもう実現したかのような気分になってしまった。

終りに、子ども達をいつくしみ、全面的支援、協力をいただいた中島孝志先生、育成会のおとうさんおかあさん、ありがとうございました。心より感謝いたします。

（杉山勝四郎）

韓国親善 サッカーの記録

西日本少年サッカークラブコーチ　小花公生

五十三年三月二十九日、選手十五名は神戸に集合し、二日間の合宿。三十日には神戸御影工業高校チームと練習試合をし3対0で勝ち、夜結団式の後、三十一日朝、加藤団長以下神戸FCの方々と共に大阪空港より出発した。

当日、午後四時より釜山東葉高校グランドにて釜山中学と対戦し2対1で勝つ。後半相手チームは釜山選抜選手を加えて反撃してくるが後藤義一、刑部の得点により、かろうじて一点差で逃げ切る。

二日ソウル高麗高校グランドにて十時五十分よりゲーム開始。相手高麗早起蹴球会ジュニアは高校生三人を加えて体力にものをいわせて強い当たりでくるが佐野宏光、望月達也のシュートなどで2対0で下だし二勝し、翌三日大阪空港に向かい帰途につく。

清水より西山、川崎望月達也、佐野達、後藤義一、佐野宏光、滝の七名。広島から後藤東、浜松から松本、刑部、熊本から横谷、枚方から山根、北川、岐阜から林の十五名で編成され数回の合宿を通し、足かけ三年の間面倒を見られ、このたび訪韓しよい結果をもたらして下さった加藤氏をはじめ、神戸FCの方々および監督の緒方氏に感謝し、無事長い間の大役が果たせたことをここに報告します。

韓国遠征に参加して

清水四中　望月達也

韓国遠征は僕にとって二度目の海外遠征。韓国は、日本と生活面で多くの相違点を持っていると聞き、とても不安だった。けれども反面、初めて行く土地ということでの期待感もあった。（中略）

第一日目は釜山東菜高等学校で釜山中央中学校と対戦。韓国のチームは強いという話だったが、これほど激しく、スピード感にあふれ、競り合いに強いチームだとは思わなかった。

それに加えてパスワークがいい。形勢は非常に悪く、練習のあまりできない即席チームの悪い所を多く出してしまった。守り抜き結局2対1で勝ったが、気持ちの上での大きな違いを感じた。

次の日はバスで慶州を通りソウルへ向かった。今度のホテルは高級。まわりは新開発地域で新しく大きな家ばかりが目立った。ここで日本の人（同年代）と会えたことは喜ばしいことであった。

二試合目は高麗早起蹴球会ジュニアとやった。グラウンドがよいのにはびっくりした。2対0で勝った。点を入れることができたのはうれしかった。

学ぶことが多いといえるかどうかわからないが、これから先に何らかの可能性がもてたことはあったと確信してもいいだろう。

第四回女子ミニサッカー大会

入江女子OBチーム 完全優勝を飾る！

昨年初参加して高校大学、社会人チームを連破して、アッ！といわせた人江は全員小学生だった。

今年、第四回大会は小学生の参加は認めないといわれてガッカリしたり怒ったり。優勝カップを返すのよそうよ等々、悔やしがる選手達。拒否の理由は、小学生は男女差がなく男と同じだからと、参加チームからのクレームがあったからだが、

「本当の理由はあまりにも強すぎるからですよ。」と今回対戦したあるチームの代表者が笑って話してくれた。

小学生拒否によって入江の参加はないのでは……の期待？を裏切って果たした見事な勝ちっぷりであった。

ってOBチームを編成して大会へ。

総体的にレベルが上がって苦戦した。初戦で強敵と当たりスタミナ消耗大。準決勝では初戦の疲労が残っていて先取点を許し（自殺点）相手チームの意気あがり、会場騒然として選手へのプレッシャー計り知れず、が運を自ら招き辛勝する。

決勝戦はミニサッカーを実によく研究してた。戦法もあり、個人プレーがよければ勝てたかどうかと冷汗の連続だった。

ゴールキーパーが、シュートしてもシュートしても動物的本能にてこれをはばみ、ピンチを脱し、このゴールキーパーからのクリアパスからの速攻でアッ!!という間のキーパーの重要性の認識（入江は急造キーパー）とピンチはチャンス、チャ

◇チームメンバー

監督　杉山勝四郎
コーチ　吉田　泰明
　　畠山　泰道
GK石倉ゆき美　中1

第二回静岡サッカーカーニバル

静岡工業 対 浦和南 一対一の引分け

四月九日、静岡サッカーフェスティバルは草薙グランドで三千のファンを集めて行われた。

しかもそれを長く続ける精神力があるからである。子どもに簡単に話しかける中でも、子どもの心理を理解するだけの余裕とゆとりが良い人間を生み出すのである。

良いプレーヤーを生むためには細心で長い息吹のなかではぐくむことを忘れてはいけない。

（哲）

婦人招待試合はファーストレディ圧勝！

県婦人サッカー招待は清水ファーストレディ対浜松河輪の対戦で清水ファーストレディの吉村キャップテンの活躍で3対0と大差でこの大会二連勝を飾り、チャイルド清水FC対三島チャイルドは第一クォーターで三島が3点取り、その後も押し気味で試合を進めたが結局3対0、清水は全くの幼児に比べ三島は三年生までと年令差はあったが、この日一番の楽しいゲームであった。

静岡工業 浦和南に追加点取れず

浦和南と静工のメインエベントは前半、増井、一ノ宮とわたった一点を取り、一方的に攻めた静工であったが追加点が取れず、後半つまらぬGK川島のミスで同点にされ、結局1対1の引き分けに終った。

静工では大石、増井一ノ宮、森下の四人を中盤に配し、トップ秋山、望月を走らせ、時たま鈴木の攻撃参加で場内をわかせた。

一方浦和南は前半全くペースをつかめず、いたずらにドリブルでミスをくり返していたが、後半になって浦和らしいペースを取りもどし、特に藤田、田中のキープ力と絶妙なパスでじわじわと攻めた十八分、筋野のセンタリングをキーパーがミスして一点取るや攻撃はますます浦和のペースとなった。

浦和では局面を自分でのり切ろうとするプレーが目立ち、特に秋保、田橋は将来が楽しみなプレーをキラキラと見せてくれ、一ノ宮とのコンビネーションのよさを見せてくれたが、パスで局面を解決しようとする所があり現実に今後どちらが良いか楽しみである。

春先でまだチームが未完成ではあるが個々の技術は年々向上したあとがうかがえる。毎年よい選手が出てくることは楽しいことである。

53年度の教員異動 サッカー関係の各氏も動く

今年はサッカー関係の先生方の異動が多かったが、高校では東海小から東海一高へ栄転した望月保次氏の他は富士高の高田氏が新設校へ、藤枝の長池氏、鈴木氏が浜松へ転出したほかは大きな異動はなかった。

中学関係では五中の仲井氏が袖中へ移られた。

小学校関係では庵原郡から竹下、志村両氏が四年ぶりに清水に帰り、有二小へ強力な助っ人となった。有二の石川先生が中河内へ、有一の望月先生も飯田へと栄転。特に中河内飯田共に指導者に恵まれていなかっただけに地元のよろこびようは大きい。

その他に岡の望月氏が静岡付属小へ転出した。また富士川小の望月氏、榛原の山本宏氏がスポーツ主事として中部教育事務所に入った。

また県理事長・清水小の堀田氏も清水市教育委員会指導主事として栄転したことも今年の大きな異動の一つであった。

各先生方の今後の活躍に期待したい。

少年サッカーとチームプレー

はぐくむ

三才児教室で指導の先生が「みなさん、集まってください。名前をいいますから、おかあさんが元気に返事をしてくださいね。」

親子で、今からはじまる出席の取り方であった。私はこれは少し変だなと思う。集まった時に出席を取ることは大切であるが、学校でもこの出席というのはいるいないを示すだけの仕事であろうか。

特に低学年においては先生と子どもの大きな出合いではないだろうか。どんなに声の出ない子でも、いろいろな自己表現ができるはずである。この表現こそ、先生が最も知らなければならない子どもの姿ではないだろうか。

出欠を判定するのならば受付でチェックすればそれですんでしまうはずである。子どもを指導する場合、われわれ指導者はともすると目的とか大きなねらいを忘れて、単なる型だけの指導をとってくることがあるのではないだろうか。

いろいろな指導をする時、型から入る指導もある。柔道等を指導するときはまず受け身の型からはじめている。投げる型からは絶対入っていない。これは柔道を知る上に基本となるのが受け身であるからである。

指導してなれてくると指導の型ができあがってくることもある。

これもたしかにベテランの味として型を尊ぶのかもしれないが新鮮味に欠け、子どもがのびないことが多い。教え方の型でなく中味を教える上に何か最も重要で、どれを大切にすれば最も理解しやすくなるのかを考えた型でなければならない。

良い子どもを育てる先生は、何を最も大切にすれば子どもがのびるかを知っているのである。

生活指導のなかで、ある学校でクツをしっかりそろえる事だけ徹底的にしてやった結果いろいろな面にしっかりしてきた事実があるもちろんよいタイミングで計画したことであろうが何よりもそれを徹底したからではなかったのではないだろうか。

PEPSI

昭和53年度第5期チャイルド入団のしおり

清水市サッカー協会

幼児期にサッカーを通じて正しいマナーと，健全な身体作りをし，楽しくみんなと行動しよう。

記

期　日　昭和53年6月3日　午後3時
持ち物　入団用紙と年間団費　10,000円
　　ボール1個（3～4号ボール）
　　体育館用のヒモぐつ
会　場　清水市立辻小学校体育館
※ユニホームはこちらで指定した物を着用。
（シャツ，パンツ，ストッキング一式
　　4,000円ぐらい）
受　付　先着50名　清水市辻町　清水ゴール
☎　67－1970

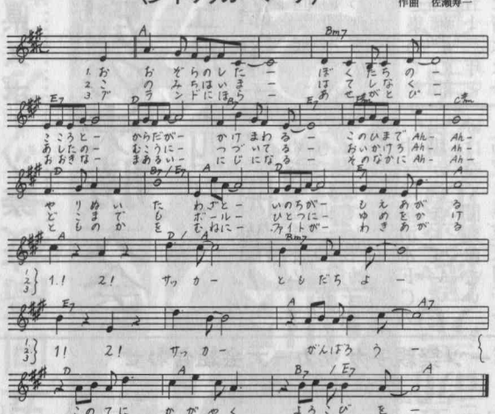
少年サッカーの歌できる

第二回全日本少年サッカー大会を記念して「サッカーの歌」ができあがり、会場で歌うことになった。

大きくはばたき、リズムにのったサッカーができるであろう。

1！2！サッカー（少年サッカーマーチ）

作詞　伊藤アキラ
作曲　佐瀬寿一



1 大空の下ぼくたちの心と身体がかけまわる この日まで、ああ、やりぬいた技と生命が燃えあがる 1！2！サッカー！友だちよ 1！2！サッカー！がんばろう この手に輝くよろこびを

2 この道は今、はてしなく 明日の向うに続いてる 追いかけろ、ああ、どこまでも ボールひとつに夢をかけ 1！2！サッカー！友だちよ 1！2！サッカー！がんばろう 力と力をぶつけよう

3 グランドにほら、汗がとび 大きな、まあるい、虹になる その中に、ああ、友の顔 胸にファイトがわきあがる 1！2！サッカー！友だちよ 1！2！サッカー！がんばろう 明日に大きな虹の橋

第二回ミニサッカー大会富士FC初優勝

県下三十二チームの参加の中で行われた第二回ミニサッカー大会は田中屋の屋上で県下各地の少年によって三月二十三日より二十六日までの四日間行われたが、富士FCがABともに決勝に進出したが、決勝でBチームが失格したため準決で敗れた江尻が二位に進出、表彰を受けた。

個人技のある富士FCに今後も期待したい。

全清水FC 最後の西淡路サッカーで優勝

西淡路に招待された全清水FC六年は町田3S、神戸FC等、全国の最強チームの中で行われたが、小学生の最終試合としてパスワークのよい試合を展開見事優勝した。